

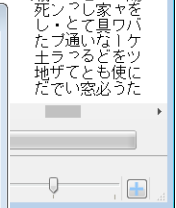
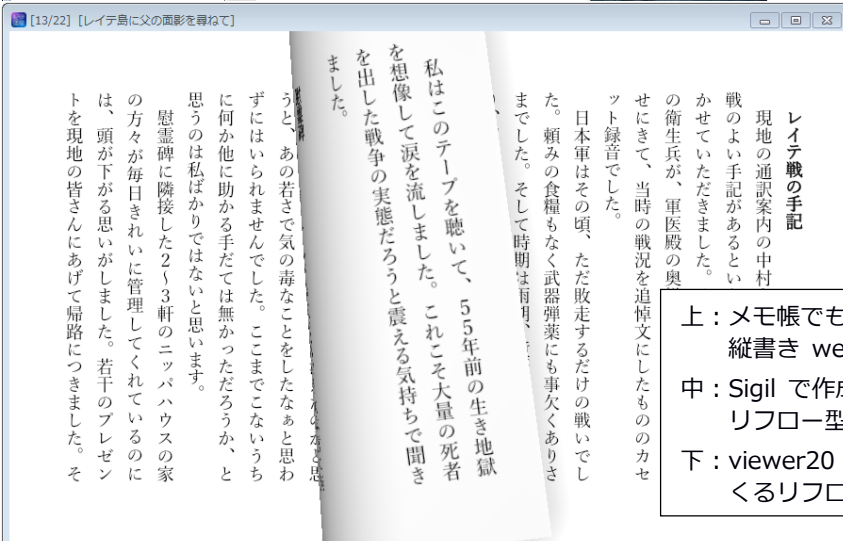
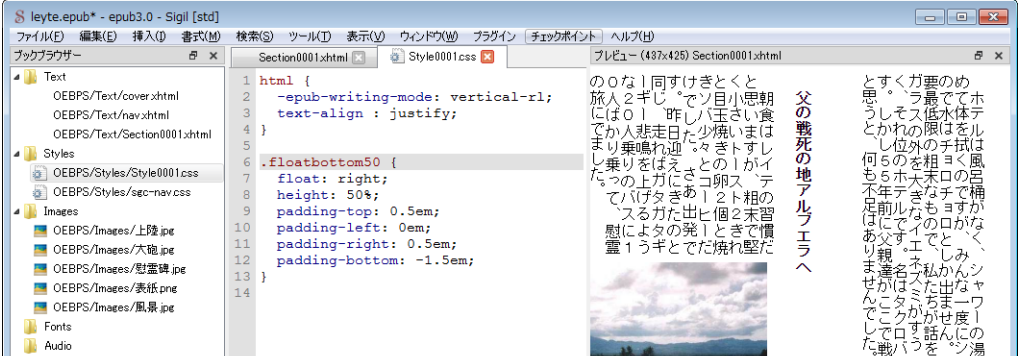
小品には縦書きがよく似合う・・・かも

2024年1月 加藤厚

ー フリーアプリによる縦書きリフロー型 ePub の作成と web 公開 ー



父・寛が2000年に綴った祖父・加藤政次(まさじ)の慰霊の旅の手記を例として取り上げました。母方の祖父・杉山彦三は満鉄勤務で、母は奉天からの引揚げを体験しています。大変な時代でしたネ!



- 上 : メモ帳でも簡単に作れる 縦書き web 頁
- 中 : Sigil で作成中の縦書き リフロー型 ePub
- 下 : viewer20 でペラペラめくるリフロー型 ePub

目次

- 01 お気楽・お手軽に「小品」を作ってみませんか? 1
- 02 Web 頁は原稿と画像があればメモ帳でも作れます。 3
- 03 作品の「縦書き」公開も簡単にできます。でも 5
- 04 「作品」らしくみえるのはやはり ePub でしょう。 7
- 05 本文を縦書きにして小見出しから目次を作ります。 9
- 06 ワープロのプレビューを画像化して「表紙」を作ります。 . . 11
- 07 紙面の下部に本文回り込みで画像を組み込みます。 13
- 08 フリーアプリの Calibre で画像を無劣化圧縮できます。 . . . 15
- 09 Bibi を使えば online で読んでもらえます。 17
- 10 小品作成には「若返り効果」が期待できる 19

【文献】

昔の道具で窓からプチ家出 (加藤厚 2023)

http://mmua.html.xdomain.jp/kato/pdf/evading_p.o.pdf

「電子書籍」関連の補足 (加藤厚 2022)

<http://mmua.html.xdomain.jp/kato/pdf/e-book2022.pdf>

レイテ戦記 (二) (大岡昇平 2018) 中公文庫

A 5 判見開きでの閲読を想定して作成した本冊子の内容は、筆者が Windows 7 を OS とする PC 上で確認した結果をまとめたものです。お気づきの点などありましたら atsushi.kato.1958@gmail.com までお知らせ頂ければ嬉しく思います。

10 や 11 への移行を済ませている素直な(?) Windows ユーザーは、Sigil については Legacy ではなく Windows-Setup.exe などを選択しましょう (04 参照)。

(筆者はまだ試していませんが) 最新版の Calibre に付属する ebook-edit で最初から作業するのが「最も賢明な選択」かもしれません (08 参照)。

ePubの開き方はbibipresets内のdefault.jsで指定できます。例えば、常に表紙から始めたければ“resume-from-last-position”を“no”、下部のスライダーが不要なら“use-slider”を“no”、標準文字サイズを指定したければ“base-font-size”を“22”などといった具合です。より詳しくは同folder内のREADME.mdを参照してください。

【用語集】

Bibi：松島智さん作成のJavaScript製ePubリーダー。加藤（2023）ではOS不問のePubリーダーとしての、本冊子ではサーバーの配信システムとしての利用法を紹介しています（09参照）。Viewer20とは異なりフォントはブラウザ依存のようです。

Calibre（キャリバー：品質の意か？）：フリーの多機能電子書籍管理アプリ。電子書籍の登録・検索やファイル形式の変換などもできますが、本冊子では付属するebook-editの[画像の可逆圧縮]機能のみを使用します。いつか使いこなしてみたいアプリです。

CSS（Cascading Style Sheets）：2010年頃から広まったwebページの書式指定方法（…結果としてHTMLには要素と構造のみが残ります）。ePubでは本文の書式や画像のレイアウト（表示の方向・位置、禁則、余白など）を指定するstyle.cssとして利用されています。

ePub：電子書籍の標準フォーマット。その実体はzip圧縮された本文・目次などのXHTML、書式指定のCSSなどのファイル群です。

HTML（HyperText Markup Language）：テキストに書き込んで改行、改段落、見出し、画像挿入などの構造と要素を指定し「ブラウザで閲覧する文書」として表示する記号群。ePubでは本文などの記述にXHTML（＝より厳格なHTML）が利用されています。

Sigil（英語ならスイジル、米語ならスイグル：紋章の意）：フリーのePubエディタ。ポータブル使用も可能。Linux用、Mac用もあり。

UTF-8（Unicode Transformation Format-8）：最も多くのOSが対応している文字コード。Shift_JISより汎用でUTF-16/32より効率的。

Viewer20：電子書籍アプリKinoppyに含まれる多機能ビューア。フォントの切替や行間の調整、画面の拡大などもでき、ポータブル使用も可能。詳しくは加藤（2022）の02を参照。

右綴じ／左綴じ：前者は縦書きの、後者は横書きの書籍の体裁。前者なら表紙の右側が、後者なら表紙の左側が綴じてあり、右綴じなら右側において左側に、左綴じならその逆に読み進みます。

01 お気楽・お手軽に「小品」を作ってみませんか？

現役時代には時間的制約などのため納得いくまでできなかったことのいくつかを、退職後に順次再開してきました。それらにおける達成や失敗の自分自身のための資料化※がこれらの小冊子で、その公開は自己満足と（どこかにいるかもしれない）同好の士のための行いです。※「3ヶ月後の自分は他人」…記録無しには積み上げは不可能ですネ。

そして、そのような「情報の保存と伝達」が目的の資料なら、外国語や数式を扱い易い横書きで作成し、レイアウトが定まる＝頁が意味を持つ形式（例：PDF）で公開するのが適切でしょう。

しかし、目的が「情報の保存と伝達」というよりはむしろ「情緒、つまり感情や気分・雰囲気といった事柄の記録と再／追体験」である場合には、横書きよりも縦書きの方が適切な場合が多いように感じます。シルバー川柳に対する「川柳はやはり（横書きではなく）縦書きで読みたい」（加藤，2023，p.1）という感覚はその一例です。

古代中国に倣った幅の狭い木簡への縦書きから始まった日本語の記述は、幅広の紙や巻物でも上から下、右から左に千数百年に渡って行われてきました。そして、欧文記述に倣った横書きを取り入れて百数十年が過ぎた現在でも、俳句・短歌・詩は言うに及ばず、新書・文庫などの書籍の多くも「本文縦書き」で出版されています（ついでに言えば、マンガの吹き出し中のセリフも縦書きですネ）。

従って、情報よりも情緒を重視する「小品」（ちょっとした作品）を日本語で作成・公開する場合、横書きよりも縦書きの方が適切かもしれませぬ。加えて、PDFの長所であり制約でもある固定レイアウト※ではなく、文字の大きさが可変のリフロー（reflow：流動表示）型で※固定レイアウトでは「頁が意味を持つ」一方「小画面での閲覧は困難」です。

縦書き記述ができれば、小画面（例：スマホなど）でも閲覧しやすい情緒の表現が可能になります。

そこで、本冊子では筆者が2000年にweb公開した筆者の父(加藤寛)の小品を例として取り上げ、まず「それなりのweb頁※をお手軽に作成する最小限の知識」と「それを縦書きにする簡単な方法」を準備運動的に復習し、その上でほぼ同一内容の「表紙・目次完備のリフロー型縦書きePub」の作成及びweb公開の方法を紹介します。
※文字の大きさを変えるとレイアウトが変わるweb頁も「リフロー型」です。

「小説家になろう」やKDPに挑戦せずともお気楽・お手軽に同様の成果が得られる点、今更苦勞はしたくない高齢者向けかもしれません。

The image shows two browser windows side-by-side. The left window displays a vertical text page with a URL 'mmua.html.xdomain.jp/bak/senryu/silver.htm'. The text is written vertically from right to left. A blue arrow points from the text '資料1 縦書きで表示したシルバー川柳' to the vertical text. The right window shows the homepage of '小説家になろう' (Syosetu.com) in a browser. The page features a blue header with the site name and navigation links. Below the header are several promotional banners for authors and books. At the bottom, there is a section for 'Kindle Direct / パブリッシングなら、電子書籍とペーパーバックを無料でセルフ出版し、Amazonのサイトで何百万人も読者に販売できます。' (Kindle Direct / Publishing: Publish eBooks and Paperbacks for free on Amazon's site and sell to millions of readers).

資料1 縦書きで表示したシルバー川柳
投稿・セルフ出版が可能な「小説家になろう」・KDPのサイト(右)

02 Web 頁は原稿と画像があればメモ帳でも作れます。

近年の web 頁は JavaScript などを駆使した賑やかなものが主流ですが、元来のそれは HTML (HyperText Markup Language) という簡素な記号で構造化した「ブラウザで閲読する文書」でした。その作成に必要な基本知識は少なめで、筆者が 2000 年に作成・公開した「レイテ島に父の面影を尋ねて」(資料 2 の上部にその一部を抜粋) ※で使った記号は<title>、<body>、<p>、
、、<hr>、の 7 つです。 ※Google で「レイテ 面影」を検索するとトップ表示されます。なお、同頁末尾の[作成者の頁]ボタンは JavaScript なので本冊子の範囲外です。

画像のあるフォルダに資料 2 上の内容のテキストを保存し、拡張子を htm に変更してブラウザで開くと下のように表示されます。7 つの記号中、不可欠なのは<p>と
(改段落と改行)のみですが、文字指定の、水平罫線呈示の<hr>、画像呈示の、題目呈示の<title>、背景指定の<body>を加えて読みやすくしています。

<記号>と対の</記号>がある場合には、指定内容は後方で解除されます。また<記号>の中には様々な追加指定が可能です。まず<title>と</title>の間の文字が題目としてのタブに表示され、<p>と</p>の間に全角空白を挟むと大、<p>のみなら中の改段落が、
なら改行がなされます。<p>の中の align="center" 指定で</p>までの中央揃え、の中の size="1~7" や color="#000000~ffffff" (例: #004080 なら青紫) 指定でまでの文字の大きさと色指定がなされ、<hr>で水平罫線(horizontal rule)が、<body>内の bgproperties="fixed" background="画像名" 指定で指定画像(同一 folder 内の bamboo.gif)が固定(=本文スクロールに追従しない)属性で背景に呈示されます。内で src(=source)として指定された同一 folder 内の huukei.jpg が表示され、その説明として■に続く句が青紫色(#004080)の文字で示されています(無指定の場合 size は"3")。

現在では構造を重視して「見出し」は<h1~6>のタグで示するのが適切でしょうが、2000 年当時は「結果が全て」、「動けば上等」でした。;-)

```

<title>レイテ島に父の面影を尋ねて</title>
<body bgcolor="fixed" background="bamboo.gif">
<p> </p>
<p align="center"><font size="5">レイテ島に父の面影を尋ねて</font></p>
<p align="center"><font size="4">加藤 寛</font> (かとう ひろし) </p>
<p> </p>
戦争が終わって公報がきても、母はレイテの密林の中に父はきっと生きている…<p>
<br>
<font color="#004080">■レイテ島の平地の風景。やせた火山灰土でなにも育たないところ。<br>
遠方の山は日本軍最後の砦となったカンギボット山。</font>
<p> </p>
3. 帰って妻や子にどうだったと言われた時、語る勇氣はありませんでしたが、<br>
このような文にしてしっかり読んでもらいました。<p>
4. 異文化の地域の生活や人間の本性がくっきりと浮かび上がって見えました。<p>
<hr>
<p align="center">加藤 厚 作成：2000/12/18 改訂：2023/08/15</p>

```

資料2 基本的な記号の使用例及び Chrome による表示例


web 頁はブラウザの機能 ([Ctrl]+[+]/[-]など) で内容を拡大／縮小するとレイアウトも変わるリフロー型なので、同じ内容を縦書き呈示すれば、情緒の表現媒体として一定の役割を果たせそうです。

Viewer20 は秀逸な reader ですが（出版社謹製のためか）コピーはできない仕様になっています。内容をコピペしたい場合はブラウザなどを使用しましょう。

レイテ島に父の面影を尋ねて

加藤 寛 (かとう ひろし)

戦争が終わって公報がきても、母はレイテの密林の中に父はきっと生きている…



■レイテ島の平地の風景。やせた火山灰土でなにも育たないところ。遠方の山は日本軍最後の砦となったカンギボット山。

3. 帰って妻や子にどうだったと言われた時、語る勇氣はありませんでしたが、このような文にしてしっかり読んでもらいました。
4. 異文化の地域の生活や人間の本性がくっきりと浮かび上がって見えました。

加藤 厚 作成：2000/12/18 改訂：2023/08/15

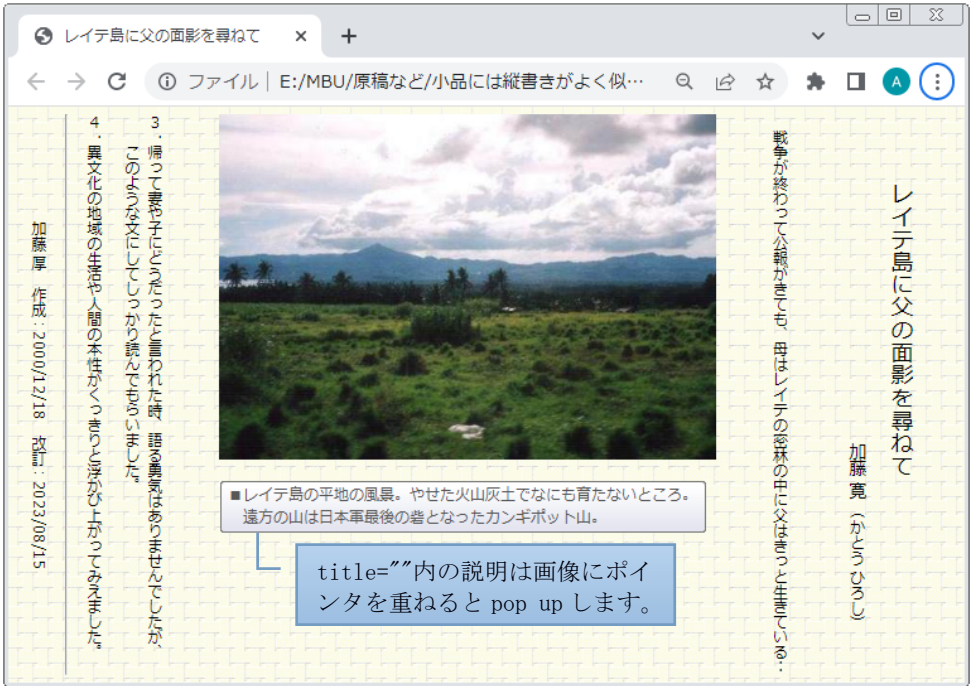
03 作品の「縦書き」公開も簡単にできます。でも・

近年のブラウザでは web 頁の内容の縦書き表示は実に簡単で、加藤 (2017) の pp. 11-12 でも紹介したように<body>内に `style="writing-mode:tb-rl;line-height:200%"` ※などの指定を追加すれば OK です。 ※文字を Top to Bottom(上から下)に、行を Right to Left(右から左)に呈示。 行幅 200% = 行間が 1 行分。禁則は「ぶら下げ」ではなく「追い込み」です。 style に ;line-break:anywhere を追加すると「禁則なし」、 ;text-align:justify を追加すると「均等割り付け」 (←字間が若干開きます) になります。

しかし、横書きでは適切だった主題などの中央揃えは縦書きでは不自然、また画像の左に縦書きで示される ■ 以下の句は「説明」らしく見えません。そこで下の枠内のように主題については `align="center"` を削除して無指定 = 上寄せにして 上に 3 つの全角ブランク を、著者については `align="right"` で下寄せにして 下に 3 つの全角ブランク を追加しました。また、情緒重視の場合「説明過多」は野暮なので本文からは削除し、内の `title="説明内容"` としました※。枠内の内容及び「レイテ島に…」の file に同様の変更を加えて upload した htm ファイルのブラウザによる表示は次頁の資料 3 の下のおりです。 ※ポインタを画像に重ねると説明内容が pop up します (次頁の画像の下)。 説明内容は改行も含め""内の記述のとおり呈示されます。

```
<title>レイテ島に父の面影を尋ねて</title>
<body bgproperties="fixed" background="bamboo.gif"
style="writing-mode:tb-rl;line-height:200%">
<p> </p>
<p><font size="5"> レイテ島に父の面影を尋ねて</font></p>
<p align="right"><font size="4">加藤 寛</font> (かとう ひろし) </p>
<p> </p>
戦争が終わって公報がきても、母はレイテの密林の中に父はきっと生きている・・・<p>
<p> </p>

<p> </p>
3. 帰って妻や子にどうだったと言われた時、語る勇氣はありませんでしたが、<br>
このような文にしてしっかり読んでもらいました。<p>
4. 異文化の地域の生活や人間の本性がくっきりと浮かび上がって見えました。<p>
<hr>
<p align="center">加藤 厚 作成：2000/12/18 改訂：2023/08/15</p></body>
```

資料3 前頁の枠内の内容の Chrome による表示↑ 同様の変更を加えて upload した「レイテ島に…」の htm ファイルの Edge による表示例↓



04 「作品」らしく見えるのはやはり ePub でしょう。

前節で示したように、縦書き web 頁は「通常の web 頁の若干の加工で作成でき、upload して URL を示す／伝えるだけで公開も可能」とお手軽です。他方、縦書きとはいえ web 頁はやはり「資料的な巻物」で、例えば文庫本のように手にとってパラパラめくれる「作品」らしさには欠けます。ということで、いよいよ本題の ePub 作成の開始です。

会員登録なしに ePub が作れるサービスとしては「でんでんコンバーター」 (<https://conv.denshochan.com/>) が有名ですが、作成時にネット接続が必要なので、今回はフリーアプリの Sigil を使います。まず GitHub の Sigil の頁※から最適なインストーラを DL します。OS が Windows 7 の筆者は Sigil-1.9.30-Windows-Legacy-Setup.exe を選びましたが、32-bit の 10 には Sigil-1.9.30-Windows-Setup.exe、64-bit の 10 や 11 なら Sigil-2.0.2-Windows-x64-Setup.exe が適切でしょう。※<https://github.com/Sigil-Ebook/Sigil/releases/>

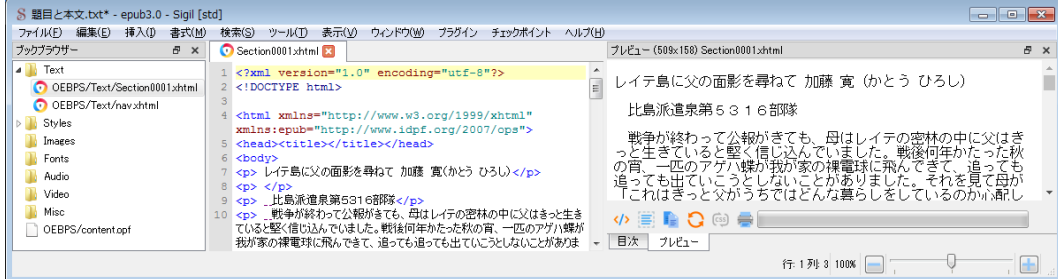
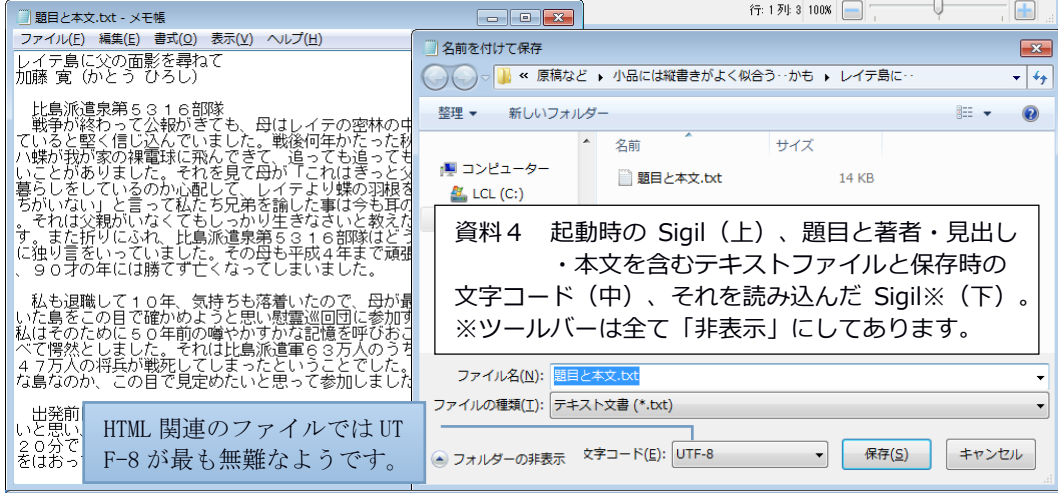
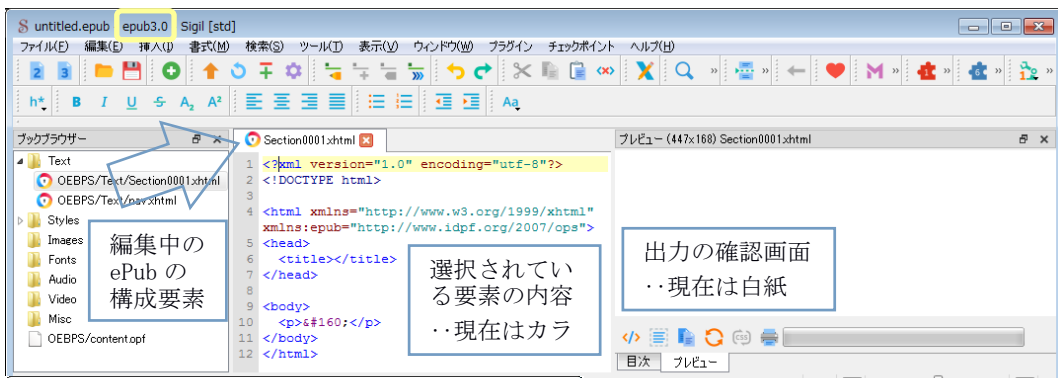
DL した Sigil-1.9.30-Windows-Legacy-Setup.exe をインストールすると、C: の Program Files (x86) folder に Sigil-Legacy という folder (208MB) が作成され (…この辺りは version 依存)、メニューや Sigil.exe のクリックで Sigil が起動します※。

※ポータブルアプリとして使用する方法については加藤(2022)の pp.3-4 参照。

起動時に左上角の untitled.epub の右が epub2.0 だったら [編集] → [環境設定] → [全般の設定] の [基本] で バージョン3 を選択して [OK] → Sigil を終了 → 起動で epub3.0 にしておきましょう (資料 4 の上)。

事前に作成し文字コード UTF-8 で保存しておいた題目と著者・(目次にする) 小見出し・書き出し全角一文字下げで段落毎に空行で区切った本文を含むテキストファイル (資料 4 の中左) を [ファイル] → [開

< > → (ファイルを選択して) [開く] (あるいは「題目と本文.txt」を右クリックで選択して Sigil に[送る]) でその内容が Section0001.xhtml として Text フォルダに読み込まれます (資料 4 の下)。



05 本文を縦書きにして小見出しから目次を作ります。

03 で行った web 頁の場合と同様、ePub を縦書きにするにはその旨の指定が必要です。そこで[ファイル]→[追加]→[空のスタイルシート]と進むと、Style0001.css という空のスタイルシート（≒書式指定）が開くので次の行※をコピーします（資料5の上の中枠）：

```
html{-epub-writing-mode:vertical-rl;text-align:justify}
※vertical は縦書き、rl は行を右から左へ、justify は均等割り付け。
```

続いて左枠の（題目と本文.txtを読み込んだ）Section0001.xhtmlを右クリック→[スタイルシートにリンク]→Style0001.cssの□をチェックして[OK]でStyle0001.cssの指定＝縦書きなどがSection0001.xhtmlに適用されます。ここで左枠のSection0001.xhtmlをWクリック（あるいは中枠のSection0001.xhtmlのタブをクリック）すると右枠の内容（題目・本文など）が縦書きに変わります（資料5の上の右枠）。

次に小見出しから目次を作ります。まず「比島派遣…」の行にカーソルを入れ、[書式]→[見出し]→[h4 見出し 4]の選択で「比島派遣…」を「見出し」に指定します（見かけも太字に変わります）。同様にして全ての小見出しを「見出し」に指定したら[ツール]→[目次]→[目次を生成]と進み、目次に含みたくない小見出し（←今回はなし）のチェックを外して[OK]で目次が生成されます。結果はnav.xhtmlのクリックでプレビューに示されます（資料5の下の右枠）。

本文の最後の「感想など」の箇条書きは”・”と改行でそれらしく見せているに過ぎません、そこで、各項目の内容を反転させてから[書式]→[箇条書き]で本当の（つまりHTMLによる）箇条書きにします。

ここで「右綴じ・右開き」を明示して一旦保存しておきましょう。

左枠 (ブックブラウザ) 最下部の content.opf をWクリックで開き、末尾から数行目の<spine>を<spine page-progression-direction="rtl">※にして[ファイル]→[名前を付けて保存]でこれまでの全内容が例えば 05.epub などとして保存されます。この時点の epub を viewer20 で開くと (まだ見開き表示ができないなどの要改善点はありますが) 資料5 の下のような題目・目次付きの「作品」が得られます。
 ※真進行=right to left (右から左) なので「右綴じ・右開き」指定になります。併せて、上から数行目の<dc:title>・・</dc:title>に題目を記入しておきます。

Viewer20のメニューは画面左端にポインタを近づけると表示されます。

資料5 スタイルシートによる縦書き指定のプレビュー (上)
 小見出しからの目次生成 (下)
 Viewer20 でのメニュー・目次・箇条書きなどの表示 (右)

目次


比島派遣泉第5316部隊	P 1
マニラからタクロバハ	P 2
父の戦死の地アルフレハ	P 4
作軍の常道戦法	P 6
レイテ戦の手記	P 7
破産碑	P 8
五年のフィリピンと日本	P 10
感想など	P 12

12/12 [レイテ島に父の面影を尋ねて]

鳥の如くよみがえりました。共にこの富を分けあおうでは
 ありませんか。
 感想など
 ・ 6日間15万円の旅でしたが私には納得がいく旅でした。
 ・ 父の戦死の地をひとめ見たことは無駄ではなかったナア
 ・ 思いました。
 ・ 帰って妻や子にどうだったと言われた時、語る勇氣はあ
 りませんでしたがこのような文にしてしつかり読んでもら
 います。

06 ワープロのプレビューを画像化して「表紙」を作ります。

頁めくり効果が秀逸な viewer20 ですが、Sigil で作った ePub の場合表紙がないと（単一頁表示のみで）見開き表示をしてくれないようです（…Bibi なら問題なし）。そこで（自分で描くのが best でしょうが）表題のとおりワープロ（Writer）の頁に画像を貼り付け、その上に文字・図形などを重ねた印刷プレビューのキャプチャ（＝画像として保存）画像から不要部分を削除して表紙を作成しました。

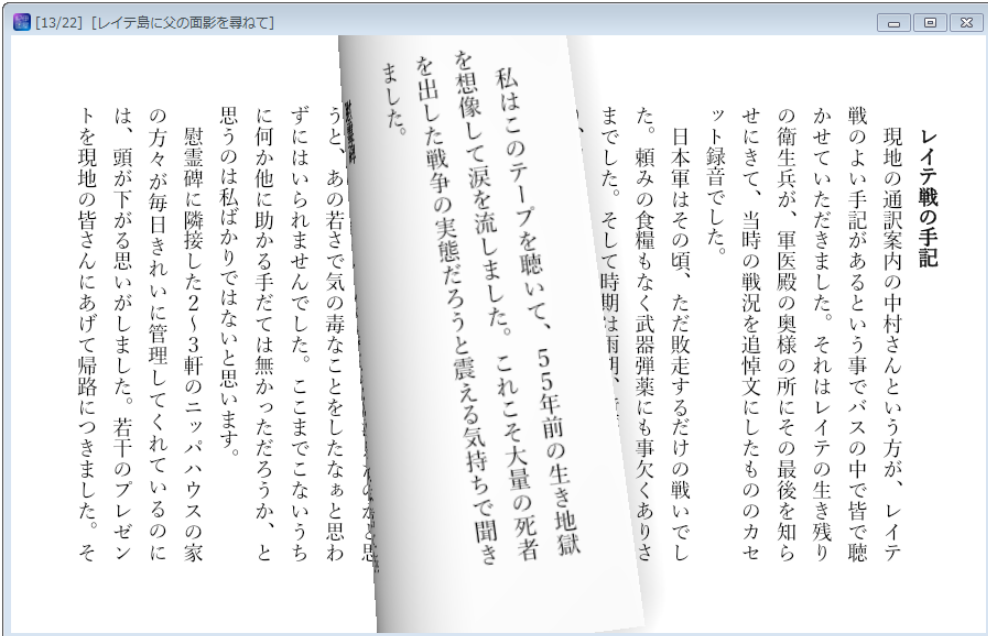
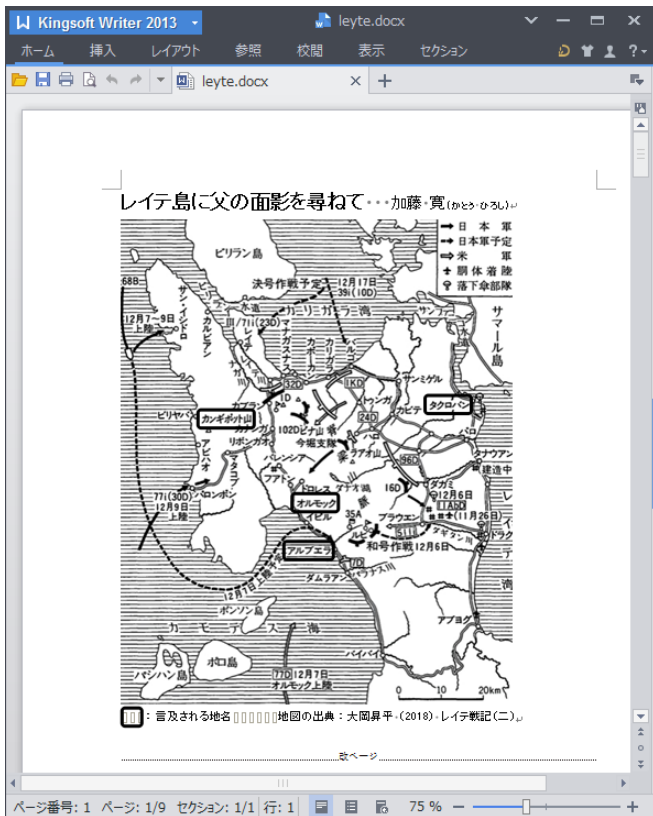
「レイテ戦記（二）」（大岡 2018）の地図の画像をワープロ文書に貼り付け、上に主題・著者など、下に記号  の意味（本文で言及される地名）と画像の出典情報を明記します※（資料 6 の右）。
※著作権法第 32 条「公表された著作物は、引用して利用することができる。」

作成した画像（今回は表紙.png）を保存したら、まず Sigil で[ファイル]→[追加]→[既存のファイル]と進み、表紙.png をクリックで選んで[開く]で左枠のブックブラウザの Images フォルダに表紙.png を取り込みます。続いて[ツール]→[表紙を追加]→表紙.png を選択して[OK]で表紙が追加されます。[ファイル]→[名前を付けて保存]で 06.epub などの名前で保存した ePub を viewer20 で開くと、今度は見開き表示が可能になっています（資料 6 の下）。

題目と著者名などは表紙に含まれているため、不要となった本文冒頭の題目と著者名は削除します。また、各見出しの前の改段落を広くするため（02 で言及した web 頁の場合と同様に）本文冒頭の「比島派遣…」の前を除き<p></p>に全角空白を追加して<p> </p>（＝「広め」の改段落）にします。その上で[保存]した ePub を viewer20 で開くと「表紙つきで見開き表示ができる作品」になっています。

「小品」が文字だけで挿絵などがいらな
いなら、ここまでの
知識で ePub を完成
させられます（資料
6 の下）。

資料6 ワープロ文書に
画像を貼り付け
文字・図形、出典情報な
どを追加した表紙の原稿
(右)
表紙の追加によって見開
き表示が可能になった本
節の段階での「レイテ島
に父の面影を尋ねて」
(下)



07 紙面の下部に本文回り込みで画像を組み込みます。

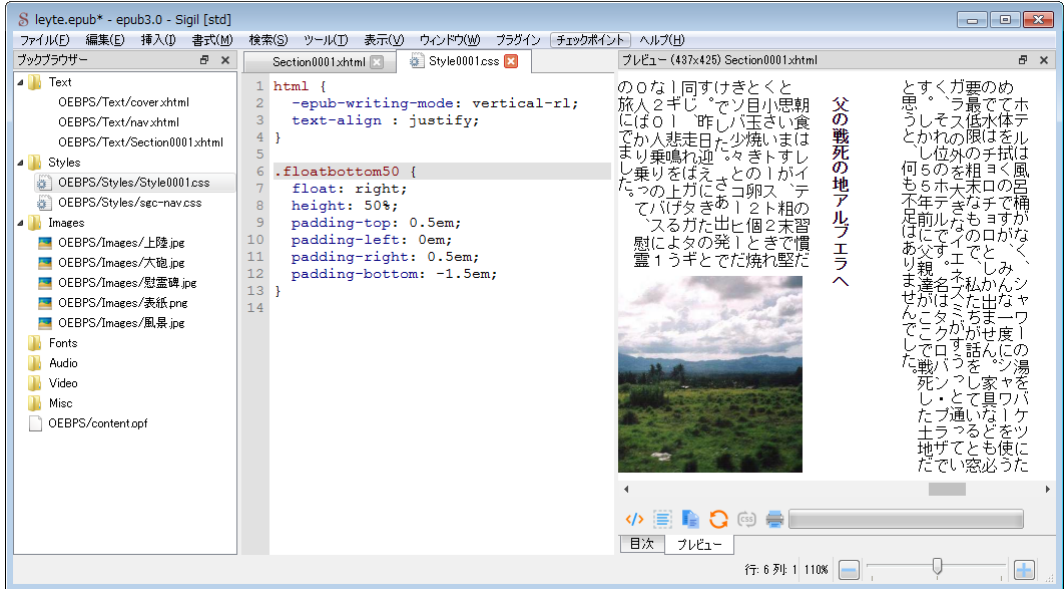
「レイテ島に…」は4葉の画像を含むため、まずそれらを ePub に読み込む必要があります。前節の表紙の場合と同様、[ファイル]→[追加]→[既存のファイル]と進んで画像ファイル（今回は jpg 4つ）をクリックで選択して[開く]とブックリーダーの Images フォルダにそれらが取り込まれます。続いて、画像呈示の書式指定を追加します。05 で作成した Style0001.css を開き、本文に関する指定 `html{-epub-writing-mode:vertical-rl;text-align:justify}` の下に以下の2行の画像に関する指定※をコピーします：

```
.floatbottom50{float:right;height:50%;padding-top:0.5em;
padding-left:0em;padding-right:0.5em;padding-bottom:-1.5em}
```

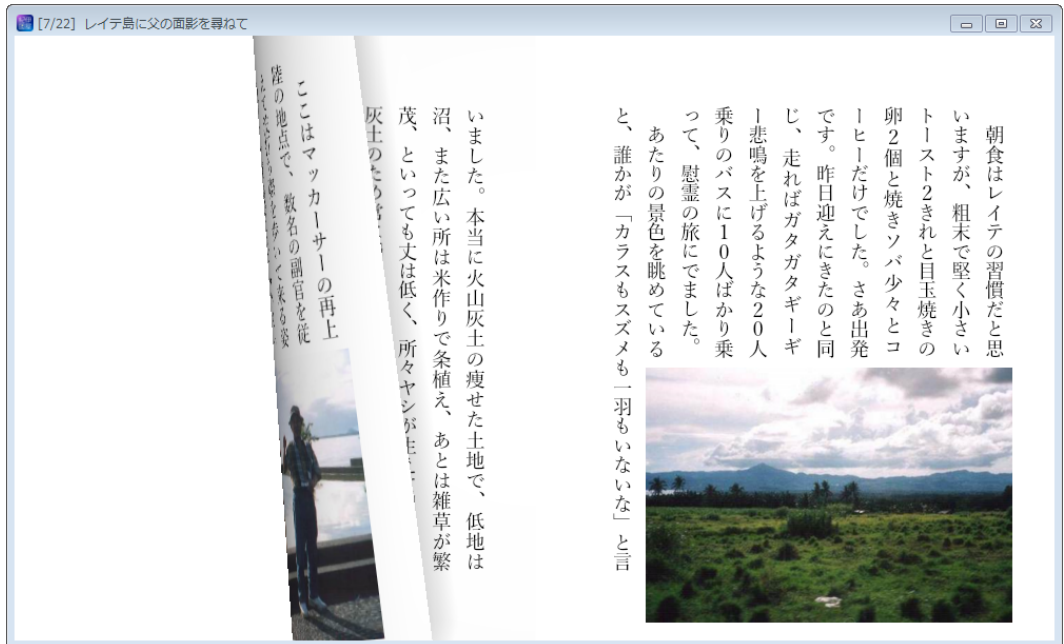
※{}内の意味：float…本文は画像に回り込み、right…画像は紙面の下（横書きの右は縦書きの下）、height:50%…画像の高さは本文の半分、Padding…画像周辺の余白、em（エム）…余白幅の単位で 1em は1文字分（負値ならばみ出し）。指定名の前に.を付けるのは別の指定法（id セレクタ）と区別するため、実際の使用時には「指定名」のみを用います。

続いて、Section0001.xhtml 中の画像を挿入したい部分（例：風景.jpg なら「父の戦死の地…」の次行）にカーソルを入れ、[挿入]→[ファイル]→風景.jpg をクリックで選んで[OK]で画像が（書式未指定のため）紙面一杯に呈示されます。ここで Section0001.xhtml の<img と alt の間に class="floatbottom50"（←. は付けません）と追記すると、指定どおりに紙面の下部に 50%の高さの画像が（viewer20 では紙面下部に若干はみ出して）呈示され、本文はその上を回り込みます。

同様に他の3葉の画像を挿入し終わったら[ファイル]→[名前を付けて保存]で例えば 07.epub などとして保存します。viewer20 で開くと資料7の下のような「作品」らしく見える小品になっています。



資料7 半分サイズの画像の紙面下部呈示と本文回り込みなどを指定した結果のプレビュー↑
Viewer20 による 07.epub の表示↓bottom:-1.5em で画像は下に「はみ出し」



08 フリーアプリの Calibre で画像を無劣化圧縮できます。

ここで各ファイルのサイズを振り返ってみると、題目と本文.txt は 14KB、風景～慰霊碑.jpg は計 122KB、表紙.png は 323KB で計 459KB です (png は無劣化なのでサイズ大)。そして、本文+目次の 05. epub は 8KB 弱、表紙を加えた 06. epub は 315KB、写真 4 葉を加えた 07. epub は 438KB でした (ePub は zip 圧縮されています)。

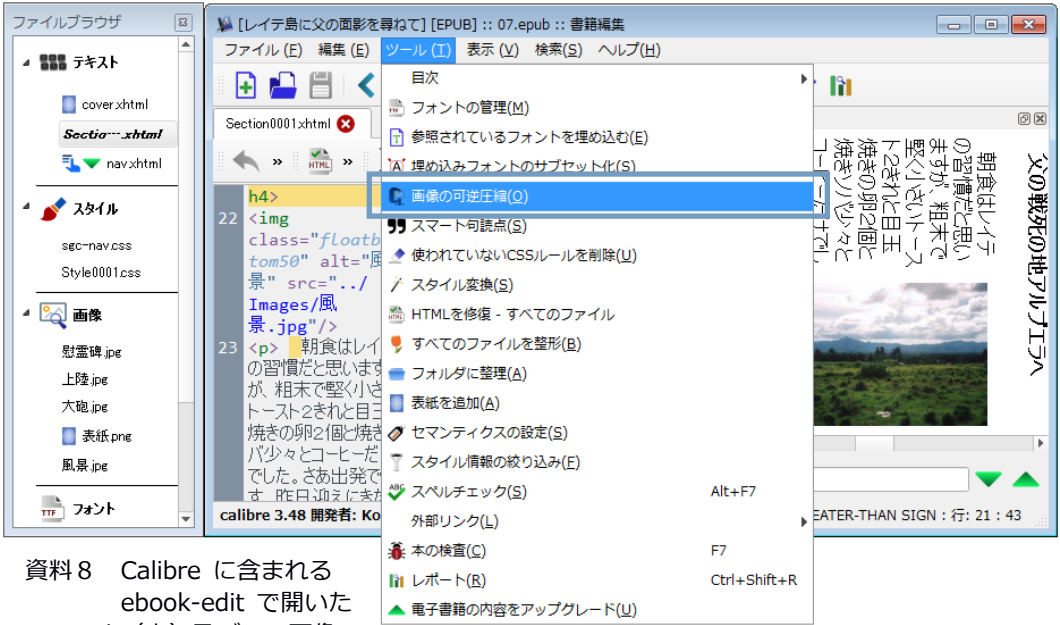
近年では数 MB 程度のファイルは「大きい」部類には入りませんが、内容が同じならサイズは小さい方が望ましいのもまた事実。ということで、ePub の無劣化での小サイズ化を試みます。

電子書籍管理アプリの Calibre (キャリバー) ※には Sigil とほぼ同じ使い勝手に [画像の可逆圧縮] という独自機能を持つ編集ツール ebook-edit が含まれています。筆者が試した Windows 7 対応の古いポータブル版 (ver. 3.48) では縦書き編集時に文字が横向きになってしまう (資料 8 の上の右) ため紹介してきませんでしたが、Sigil で編集済みの ePub を ebook-edit で可逆圧縮→別名保存するだけで画像劣化なしにより小さい ePub が得られるなら使わない手はありません。

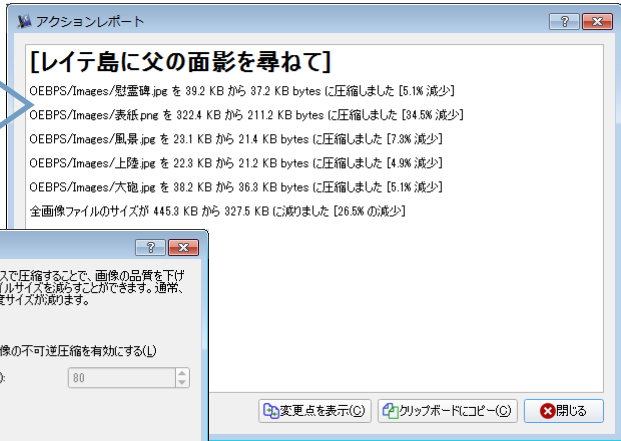
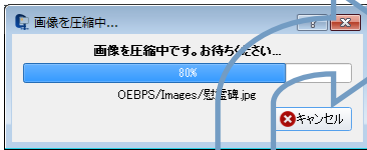
※<https://calibre-ebook.com/download>

そこで、438KB の 07. epub を ebook-edit で開き、[画像の可逆圧縮] を行って 08. epub として保存したところ、そのサイズは 336KB で 100KB 以上小さくなり、約 23% の圧縮が達成されました。圧縮方法は不明※ですが、かなり強力=有効です。単純なアプリを好む筆者は多機能な Calibre を使わずに来ましたが、Ver. 5 以降は「正式に縦書き対応」とのことなので、OS が Windows 10/11 の場合には最初からこちらを使うのが「最も賢明な選択」かもしれません。

※ePub は 3.3 で webP (ウェッピー) 対応を勧告していますが、今回の圧縮では jpg も png も拡張子はそのままでした (=webp 化ではありません)。



資料8 Calibre に含まれる ebook-edit で開いた 07.epub (上) 及びその画像の可逆圧縮の過程と結果 (下)



Windows の各 version に対応する Calibre は、7 と Vista が ver. 3.48、8 と 32-bit の 10 が ver. 5.44、64-bit の 10 と 11 が ver. 6~ (最新版は ver. 7.4.0) です。

ついでに、Calibre の開発者はインドの Kovid Goyal さん、Sigil の最初の開発者はクロアチア出身の Strahinja Val Markovićさん。

09 Bibi を使えば online で読んでもらえます。

作成した epub ファイルを個人サイトなどに upload し、その URL を説明とともに web 頁に提示すれば、興味・関心のある人は（右クリックなどで）DL して viewer20 などで閲読してくれることでしょう。ここでもう一工夫して松島智さん作成の Bibi※を使うと、upload した ePub をブラウザで直接 online 閲読してもらえようになります。

※<https://bibi.epub.link/>

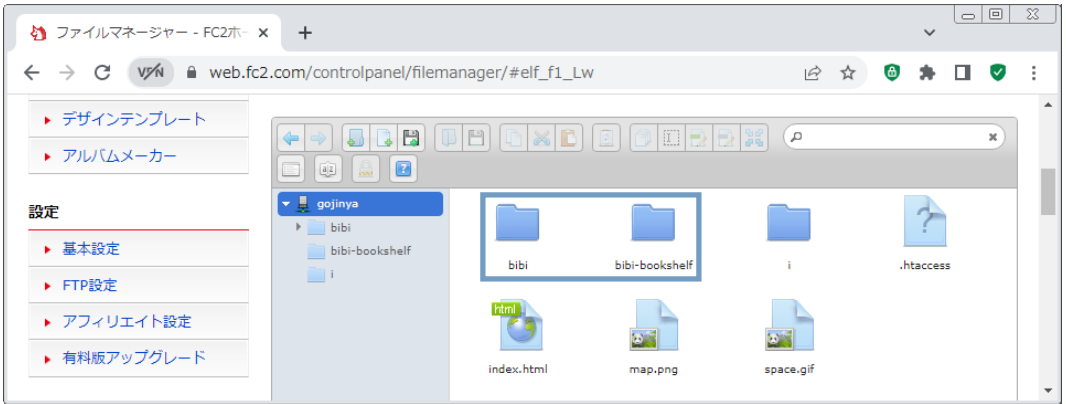
必要な準備は、上の URL のサイトから DL した Bibi-v1.2.0.zip (90 KB) から展開した bibi フォルダと公開する ePub※を保存した bibi-bookshelf フォルダをサイトに upload するだけです（資料 9 の上）。※内容が確定するまでは仮のファイル名 # にしておくのがオススメです。理由は同名だと新ファイル upload 後も古い内容が示されがちなためです。
例 : lyt01→lyt02→lyt03→…→lyt→leyte

具体例として、以前から横書き web 頁の「レイテ島に…」を公開してきたサイト（FC2 無料ホームページ : <http://gojinya.web.fc2.com/>）に bibi フォルダと（公開する epub を含む）bibi-bookshelf フォルダを upload した状態は資料 9 の上に示したとおりです。この状態で以下の URL※を含む link を web 頁に呈示し、その旨を mail などで連絡すれば link のクリックで epub（例 : lyt.epub）の内容が資料 9 の下のようブラウザに online で表示されます。

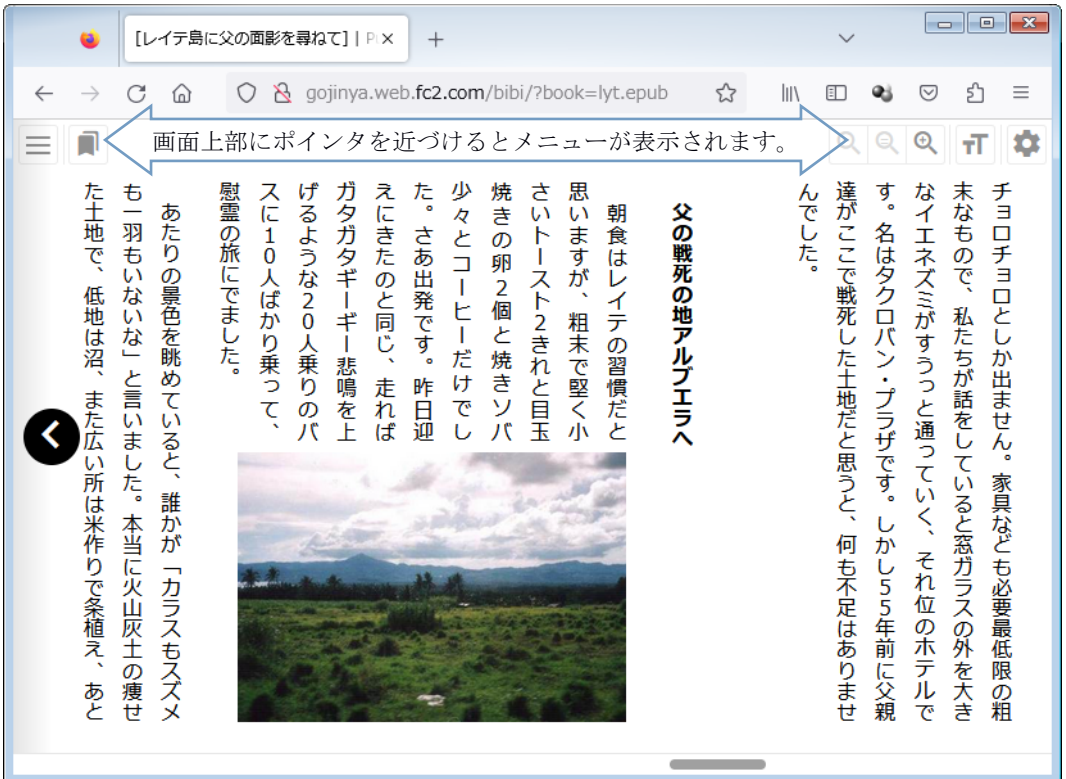
※[#http://gojinya.web.fc2.com/bibi/?book=lyt.epub](http://gojinya.web.fc2.com/bibi/?book=lyt.epub) #

書式は「サイトの URL/bibi/?book=ファイル名.epub」

資料 9 のブラウザによる表示と資料 7 の viewer20 による表示を比較すると、ブラウザでは画像の下への「はみ出し」は実現されておらず、頁めくり効果もありません。他方、viewer20 では左側に表示されるメニューでより細かい設定（例 : [A] アイコンでフォントや行間などの変更）が可能です。簡条書きの表現は今一歩（資料 5）ですネ。



資料9 自分のサイト (例 : FC2) に bibi と bibi-bookshelf の2フォルダを upload ↑
bibi-bookshelf フォルダ内の epub ファイルを Firefox で online 閲読 ↓



古典的条件づけ：無条件刺激（例：餌）と中性刺激（例：ベルの音）を反復対呈示すると、
中性刺激が条件刺激になって無条件反射に準ずる条件反射（例：少量の唾液分泌）が
起こるようになる、というアレです。

10 小品作成には「若返り効果」が期待できる…かも

目覚めた時に記憶を全て無くしていたら…と想像してみてください。それこそ「ここは何処？ 私は誰？」で途方に暮れてしまうことでしょう。経験や印象、得てきた知識まで失ってしまっていたら、言語が使えたとしても「正しく考えること」自体できそうにもありません。

つまり、経験＝印象的・言語的記憶の組織的集積こそが「自分」であり、それらをそれなりに正しく踏まえなければ現在と将来の自分についての妥当な理解・予想・期待・計画などは行いようがないのです。

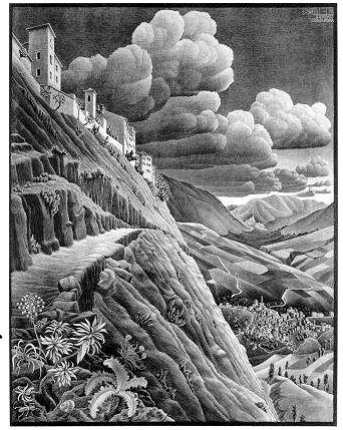
他方、記憶は失われやすく（01でも触れたように）「3ヶ月後の自分は他人」で、確かに自分が考えたはずの論理展開などもしばらく経つと辿り直せなくなっていたりします。加えて「自我」は勝手に、都合の悪い記憶（例：失敗）は無かったことにしがります（…本当は失敗や黒歴史のたぐいこそ「詰まるどころ、自分が誰であり、誰では無いか」を確かに教えてくれる重要な体験なのですが）。

室町時代の狂言に「わかき時諸国を見物仕候はねば、としよって物がたりがなひ」という台詞※があるそうです。数十年生きて来たからには、良くも悪くも（少なくとも自分自身にとっては）「意味のある経験」を誰もが持っているはずです。しかし、何らかの形で整理しておかない限り、それらは当人の中でも時の経過とともに薄れたり変容されたりして失われがちであり、また何らかの形で表現しなければ他者には伝わりようがありません。

※「多様な体験を踏まえてこそ有意味な発信ができる」という意味でしょう。

加えて、遍歴を「自分なり」に取捨選択していくつかの物語にまとめあげることには、次に踏み出せる、また踏み出すべき「新しい旅」

Castrovalva (1930)
© Escher, M. C.



の目的地を定め、旅程を考える準備・助走としての効用もあることでしょう。

近年、高齢者のうつ状態や認知症の治療と予防、リハビリなどを目的として、回想法などの活動が広く行われているようです※。本冊子で紹介してきた小品作成は、「自分が自分で自分のために行う回想法」とも言えそうです。するかしないか、何についてするのか、どこまでで止めておくのか…といった全てを決めるのは自分ですから、気楽に取り組みます…全ては「自分しだい」なのです。

※回想法、ライフレビューなどをキーワードとして検索してみましょう。

最後に「小品作成には若返り効果があるかも…」という話題を紹介して結びとします。キーワードは「古典的条件づけ」…ボクたちの頃は高校の生物で習った「パブロフの犬」の話です (p. 18 末尾 # 参照)。

小品作成には、何らかの体験の想起、経験の評価などが伴います。その時に体験当時の反射（外分泌：涙・汗・唾液などと内分泌：ホルモン状態を含む不随意反応）が若干でも起これば、それは当時の自己の状態の弱い追／再体験になります。つまり、それをしている間は「あの頃の自分により近い身体&精神状態」＝若返り状態になる、というワケです。そしてその反復によって「習い性と成る」可能性も否定できません…まあ「懐メロを聞いてその頃の気分になる」程度の効果かもしれませんが。ともあれ、戦争を直接体験することなく、少年期には高度成長の夢を、20代にはバブル景気のカラ騒ぎを経験でき、続く失われた30年も無難にやり過ごして来られたなら、ボクたちは近代日本の約160年間で「最も幸運な世代」なのかもしれません。Cheers!!